

津波に関する基本計画について（ローリング建設案をベースとした検討）

東日本大震災により、津波の想定高さを変更する必要があるあり、下記基準と想定し、比較検討資料を作成する。

- ・津波想定（TP基準） 1.6m（平均満潮位）+0.9m×2（予想津波高×2倍）=3.4m
- ・建設地標高 2.8m（全面道路中心標高を基準）
- ・建設地津波浸水深さ 3.4m－2.8m=0.6m

	A案：敷地廻りに防潮設備を設ける案	B案：1階FL高さをTP3.4mとする案	C案：A案とB案の複合案
断面計画イメージ			
必要面積と配置計画の関係			
対策内容	敷地廻りに、高さ0.6m程度の花壇を設け、各出入口には防水扉で対策する。	新庁舎に高さ600程度の基壇を設ける。	1階床レベルを可能な限り高く設定し、予想津波高さにあわせて、建物入口部分に防潮設備の設置を行う。
メリット	・津波高さの想定の変更に対応しやすい。 ・現在の検討案のまま進めることができる。	・高さ600程度であれば安価に対策できる。	・津波高さの想定の変更に対応しやすい。
デメリット	検討案では歩行者用2箇所（4m程度）、歩行者・車両2箇所（10m程度）の計4箇所想定しており、防水扉設置によるコスト増。 ※脱着式、ジャッキハンドル式、電動式など様々な対応があるが、対策必要な出入口幅によって設定が必要。	・新庁舎出入口が地盤面より高い位置になるため、階段やスロープを設けるなどバリアフリー対策が必要。 ・日影規制にも配慮が必要となり、変更検討が必要。	・新庁舎出入口が地盤面より高い位置になるため、階段やスロープを設けるなどバリアフリー対策が必要。
コスト（津波対策をしない場合との比較）	2000万円増（脱着式）	300万円増	500万円増
総合評価	△	△	○